

# 平成 28 年度 東山会会報

名古屋大学工学部機械系学科同窓会 東山会 平成 28 年 11 月発行



## 【目 次】

- |                         |                    |            |        |
|-------------------------|--------------------|------------|--------|
| ●新会長就任挨拶                | 昭和 48 年卒業 (第 32 回) | 土屋 総二郎 会長  | P1~2   |
| ●前会長退任挨拶                | 昭和 46 年卒業 (第 30 回) | 杉田 雄二 氏    | P3~4   |
| ●村上澄男名誉教授への追悼の辞         |                    |            |        |
|                         | 昭和 47 年卒業 (第 31 回) | 田中 英一 氏    | P5~6   |
| ●新任・着任の先生の挨拶            |                    | 長野 方星 教授   | P7     |
|                         |                    | 松本 健郎 教授   | P8     |
|                         |                    | 早坂 健宏 助教   | P9     |
|                         |                    | 村島 基之 助教   | P10    |
|                         |                    | 佐久間 巨耶 助教  | P11    |
|                         |                    | 岡本 正吾 講師   | P12    |
| ●昇任の先生の挨拶               |                    |            |        |
| ●定年・退職の先生のお言葉           |                    |            |        |
|                         | 昭和 48 年卒業 (第 32 回) | 大野 信忠 先生   | P13~14 |
| ●会員からの便り                | 平成 8 年卒業 (第 55 回)  | 深津 彰省 氏    | P15~16 |
| ●学内近況                   |                    | 新美 智秀 教授   | P17~18 |
| ●平成 28 年東山会新年同窓会の報告     |                    | 巨 陽 教授     | P19~21 |
| ●第 16 回 東山会イブニングサロン開催報告 |                    | 山田 陽滋 庶務理事 | P22~23 |
| ●掲載原稿募集 (同期会等の報告)       |                    |            | P24    |

東山会 会長

土屋総二郎

昭和 48 年卒業(第 32 回)



### 東山会会長就任にあたって

杉田前会長の後を受けて、東山会会長を務めさせていただくことになりました土屋でございます。歴史と伝統ある東山会の会長が、私のようなものに務まるかどうか大変心配ではございますが、諸先輩や副会長、理事の皆様のご支援とご協力を頼りに何とかやらせていただこうと思っております。

杉田前会長をはじめ歴代の会長、関係者の皆様のご努力により東山会は立派な組織として成長してまいりました。1950年に機械系同窓会として発足したのち現在まで66年経過し、会員数も6000名を超えるまでになりました。シニアから若い技術者まで、そして企業で活躍するエンジニア、大学や研究機関での研究者、さらに活躍している地域も中部地域に限らず全国、近年では海外で活躍されている方も多くおられます。このように東山会は歴史を重ね、多くの地域、組織で活躍されている技術者の集まりとなっております。

今年の年初には第14回総会、新年同窓会が開催されました。先日には第16回イブニングサロンが盛況に開催され、東山へ帰る日などの諸活動も定着しております。関東や関西でも支部活動が行われております。会報の発行やホームページの整備も確実に行われており、会員皆様との絆の一つとなっております。これらはひとえに理事・役員の皆様、特に学内の若手の先生方や事務局の献身的なご努力によるもので、あらためて感謝するとともに、これらの活動は今後とも着実に継続していきたいと思っております。

同窓会というのは何らかのご縁があって、若い多感な一時期に学びの場を共有して巣立って行った技術者、研究者の集団です。それがどうした、とお考えになる方もいらっしゃるかもしれませんが、私はその「ご縁」というものを大切にすべきだと思っております。きっと何か自分自身でも気づかない根っこ、あるいはルーツのようなものがあるのかもしれませんが、いろいろなところで活躍される東山会の技術者が、年代を超えて交流できることは本当に素晴らしいことではないでしょうか。東山会の組織・活動は、このようなところに原点があると考えてお

ります。

この原点を軸足に、東山会の活動が皆様のネットワーク構築に少しでもお役にたてればと考えております。同窓会として最も基本的な整備しなければならないものの一つに会員名簿がありますが、2014年度より東山会管理の名簿から大学管理の全学電子名簿システムへの一元化の途上であり、これも着実に進めていかねばなりません。またいろいろな行事において参加者の年代に偏りがあるということもあり、これも今後の課題の一つです。

縁あってこのような大役を務めさせていただくことになりましたが、私の力だけでは到底できないことばかりですので、役員・幹事の皆様、事務局、そして何よりも会員皆様の多大なご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

杉田 雄二

昭和 46 年卒業(第 30 回)



### 前会長からの退任挨拶

平成 24 年、会員数 6000 名を超える東山会の会長職を拝命して以来、理事の皆様と会員の皆様の温かいご支援を受けて、2 期 4 年間滞りなく会長職を務めることができました。関係各位に深く感謝申し上げます。

私が会長に就任した当時の課題は、東山会への関心をより若い世代にまで広げ、総会・新年同窓会への参加者も増やすことと、業務や異動が増大している大学関係者の、東山会運営の負担を軽減することでした。前々会長の水野清史様の時代に実施していただいた構造改革で財政の収支バランスがとれましたが、大学関係者の人的負担が大きいことが課題でした。

最初の課題については、「卒業年次を超えた交流の価値創造」を追求しましたが、残念ながらよいアイデアが見つかりませんでした。せめて総会・新年同窓会への出席者を増やそうと、関心の高い特別講演を企画するとともに、50 歳、51 歳になられる会員へのレターによるお誘いや、新入会員である修士課程の学生への勧誘などを行いました。結果は残念ながら現状維持に留まりました。

二つ目の課題については、「活性化に向けた企業会員の支援」に取り組みました。東山会は会計や広報、そして名簿管理など学内でしかできない活動が多いこともあり、企業理事の皆様には各イブニングサロンを分担して引き受けていただくことにしました。一方、学内理事の人的負担を少しでも軽減するために、まず東山会名簿を全学同窓会名簿と一元化することにいたしました。実際、すでに多くの会員、特に若い世代は全学同窓会に最新情報を登録する傾向が強く、東山会との 2 重管理は弊害も目立つようになっておりました。東山会名簿管理の外注費も削減することができました。これについては、両名簿の照合作業を終えて、東山会

から提出したデータを全学同窓会で入力作業中であります。

うれしいこともありました。それは複数の会員の方から多大なご寄附をいただいたことです。そこで東山会基金の有効な活用を議論し、東山会基金運用規程の事業に「学生海外留学支援事業」を追加する改訂を行いました。

この4年間、関東支部や関西支部の総会にも参加し、多くの会員の皆様と触れ合うことができ、貴重な体験をさせていただきました。こうした体験を皆さんが共有できれば「卒業年次を超えた交流の価値創造」に繋がるかもしれません。新会長の土屋総二郎様のリーダーシップの下で、東山会がより発展することを願っております。

## 村上澄男名誉教授への追悼の辞

名古屋大学名誉教授  
東海職業能力開発大学校校長

田中 英一

昭和 47 年卒業(第 31 回)



### 村上澄男名誉教授のご逝去を悼む

皆様すでにご存じのことと思いますが、村上澄男先生におかれましては 2015 年 10 月 9 日（金）にご逝去なさいました。享年 78 歳でした。先生には 2014 年 11 月 8 日に先生のご自宅を訪れた折にお目にかかったのが最後となりました。その日私の出身講座である材料力学講座の関係者が旧交を温める会があったのですが、先生はお加減が悪いということで欠席されたのです。そこで散会后、都合のつくもの数名でお見舞いに伺ったのです。先生は一見したところまだまだお元気そうで現役時代と変わらぬご様子であり、各人の近況や高速増殖炉「もんじゅ」の事故にまつわる話などに花を咲かせました。それだけに、一年経たない間にこのような訃報に接しましたことは大変意外であり、残念でなりません。

先生は 2000 年 3 月に名古屋大学を定年退官された後、愛知工科大学に 7 年間勤務されました。この間のご様子は後述の自叙伝に詳しく記しておられますが、授業、学生指導、会議、高校訪問を中心とする学生募集活動に大変忙しく、名古屋大学に在職しておられた頃とは大違いで、これまで経験されたことがないような数々のご苦勞を重ねられたということです。しかし、そのような状況下でも、先生は研究生生活の集大成として、著書「連続体損傷力学 – 損傷・破壊解析の連続体力学的方法 –、森北出版、出版年 2008 年、本文 324 ページ」をご執筆なさいました。損傷力学に関する我が国最初の書籍であり、よくまとまっていて、今後長く読み継がれる価値ある書物の一つになるのではないかと予感します。私もたびたび参照して、研究に利用させていただいております。

先生が愛知工科大学を退職されたのは 2007 年 3 月のことです。ご退職後は前述の著書の校正をなさるとともに、改訂・増補英語版「Continuum Damage Mechanics - A Continuum Mechanics Approach to the Analysis of Damage and Fracture」の執筆に取りかかっておられます。この著書は、2012 年にドイツの老舗出版社 Springer から刊行されています。400 ページを超える大著です。国際的

に活躍しておられた先生らしく、ご友人である多くの外国人研究者の意見に基づいて改良を重ねられ、日本語版よりも内容が洗練されたものになったと伺っております。この執筆のため、ドイツ、ベルリンの出版社とのやりとりが頻繁にあり、愛知工科大学退職後の4年間は、大学在職時代と変わらない忙しい毎日であったとのことでした。

著書 *Continuum Damage Mechanics* 執筆完成後には、自叙伝「わが双葉記 – その春秋と願い–、グッドタイム出版」の執筆に取りかかっておられます。ご長男の要請に応えられたと言うことで、これもほぼ300ページに達しようという大作です。ご誕生の地の歴史的説明から始まって、先生のご先祖やご家族のこと、先生ご自身の幼少時代から晩年に至るまでの履歴が、その時々で観たこと、感じたこと、考えたこと、得られた教訓等を交えながら、克明に記録されています。中でも先生が特に多くのページを割いておられるのは、海外の研究者との交流に関することです。研究者としての道が拓かれたのは、ポーランド科学アカデミー基礎工学研究所に滞在する機会を得、そこの所長であられた A. サブチュク教授の知己を得たことであると述懐しておられ、サブチュク先生のことを「人生の最大の恩師」とまで述べておられます。サブチュク先生のご指導の下、新しい研究分野の展望が開け、また海外の数多くの研究者の知己を得ることができて、その後の研究者としての先生のご経歴に多大の好ましい影響をもたらしたということでした。このようなチャンスを逃さない積極性と目標に向かって懸命に努力される姿勢が先生のお名前を国際的に知らしめる結果に導き、やがて損傷力学に関する世界的研究者の一人として認められるようになったと拝察されます。

自叙伝は、正確な記録あるいは記憶に基づいて書かれたようで、何十年も前のことがつい昨日のことを思い出すかのように細かく具体的に書かれています。私には到底無理な話で、先生の高さに驚嘆の念を禁じ得ません。また、自叙伝全般にわたって先生の文学的才能が遺憾なく発揮され、まるでプロの小説家が書いたような非常に格調の高い文章で描写されています。

自叙伝の原稿を完成されたのはおそらく亡くなられる前年の2014年春であり、出版されたのは亡くなられた年2015年ではなかったかと思います。きちんと計画を立て、最後の最後まで全力を投入して、すべてを計画通りに立派にやり遂げられたという印象です。思い起こせば、私がまだ村上先生の下で働いていた頃、先生に、「人生計画を立てて、それを実現できるよう努力なさい」と助言されたことがありました。私自身は行き当たりばったりの性格で、うまくいっていませんが、今回自叙伝を読ませていただいて、先生は幼少期から人生を終えられるまで、まさにそれを実行されたのだと思いました。

最後になりますが、村上澄男先生は死亡叙勲制度に基づき、瑞宝中綬章を受章されました。大変悲しい状況下ではありますが、長年のご努力とご実績が認められたことに対しまして祝意を表させていただきたいと存じます。ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げて、私の哀悼の辞とさせていただきます。

合掌

## 着任挨拶

名古屋大学 大学院工学研究科  
機械理工学専攻  
環境・エネルギー工学講座  
伝熱・燃焼工学グループ

**長野 方星 教授**



2016年4月1日より機械理工学専攻、環境・エネルギー工学講座、伝熱・燃焼工学研究グループの教授に着任しました長野方星と申します。2008年に名古屋大学の航空宇宙工学専攻の講師に着任し、人工衛星の熱制御や熱輸送技術を中心に研究を行ってきました。この度、山下博史教授の後任として、航空宇宙工学専攻から機械理工学専攻へ異動して参りました。

7年間の大学研究で感じたことは、世の中は様々な場面で熱工学的問題を抱えており、その問題解決において大学に対する期待が非常に大きいことでもあります。特に産業が盛んな東海地区の中核大学の研究・教育者として、その期待に応える努力は一つの責務であると考えております。社会が期待する基礎研究、社会が注目するコア技術の両者を磨き、安全で豊かな社会の実現に貢献していけるよう頑張ります。また教育においても研究者、技術者としての総合力を育成し、夢とビジョン、独自性と提案力を備えた国際的人材を名古屋大学から輩出していきたいと思っております。



## 着任挨拶

名古屋大学 大学院工学研究科  
機械理工学専攻 機械情報システム工学分野  
生体力学・人間機械工学講座  
バイオメカニクス研究グループ

**松本 健郎 教授**



2016年4月1日付けで、田中英一先生の後任として、バイオメカニクス研究グループの教授に着任致しました。1960年に北海道・札幌に生まれ、高校まで過ごした後、東大に進んだものの、学部4年間はオーケストラで音楽三昧の暮らしでした。心を入れ替えて進学した修士課程では、精密機械工学専攻で人工臓器の研究に従事しましたが、人工臓器用の電子回路や機械部品の設計・製作やプログラミングが主の研究に飽き足らず、博士課程で北大・応用電気研究所の生体工学専攻に進みました。北大では自分たちで開発した人工心臓を自分たちでイヌに埋め込む実験に没頭し、生体工学実験の基礎を身に付けました。その後、北大で助手として採用されバイオメカニクスと出逢い、高血圧や動脈硬化と力学の関係を調べる研究を始めました。北大で助手を4年半、その間に、1年間ほど米国・ジョージア工科大学で細胞バイオメカニクスの実験技術を学び、その後、東北大学・機械電子工学科で講師・助教授を9年半務め、2002年に名古屋工業大学・機械工学科の教授として名古屋に赴任して参りました。名工大の14年間には、高血圧・動脈硬化と力の関わりを細胞レベルから明らかにする研究をメインに、基礎面では生物学者と受精卵内部の応力分布を明らかにする研究、応用面では肌年齢や動脈硬化度を調べる新たな機器の開発などを進めて参りました。そして、この度、ご縁がありまして、名古屋大学の機械理工学専攻に加えて頂いたという訳です。

定年まであと10年と残された時間は余り多くはありませんが、それにも関わらず採用して頂いたご期待に応えるべく、精一杯精進しようと思えます。東山会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 新任挨拶

名古屋大学 大学院工学研究科  
機械理工学専攻 機械科学分野  
先端材料・創製工学講座  
超精密工学研究グループ

**早坂 健宏 助教**



平成 28 年 4 月 1 日付で機械理工学専攻・超精密工学研究室（社本研究室）の助教に着任致しました早坂です。アメリカのジョージア州で生まれ、高校時代に日本に帰国し、名古屋大学で学士号・修士号・博士号を取得致しました。

学生時代は生産システムの研究に没頭しておりました。特に、実際の生産現場で多く見かける仕掛け在庫をスケジューリング理論に導入し、その上で効率的な生産を可能にする計画の立案方法を提案・実現致しました。

博士課程後期課程の最後の年からはシステムを構成する要素、すなわち加工の勉強・研究も始めました。教員となった今は加工中心、取り分け加工中に生じる自励振動問題に取り組んでおり、学生を教えながら自らも鍛える、そんな日々を過ごしております。

私自身まだ至らない点が多く、ご迷惑をお掛けすることも多々あると思いますが、名古屋大学における教育・研究活動に貢献できるよう精一杯邁進していく所存です。東山会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。

## 新任挨拶

名古屋大学 大学院工学研究科  
機械理工学専攻 機械科学分野  
先端材料・創製工学講座  
生産プロセス工学研究グループ

**村島 基之 助教**



平成 28 年 4 月 1 日付で機械理工学専攻 生産プロセス工学グループ（梅原研究室）の助教に着任いたしました村島基之と申します。現在、弾性変形する材料のトライボロジー特性の解明や 3D プリンタを活かした機械要素の開発に取り組んでおります。

出身は愛知県で、地元の名古屋大学 工学部に入学いたしました。学部生の時にはフォルクローレ同好会に所属しておりました。着任した現在でも北部生協の周りで聞こえる南米の縦笛ケーナや太鼓の音色が聞こえるたびに昔を懐かしんでおります。

さて、研究に関してですが学部 4 年生の時には現在所属している梅原研究室で実験を主とした研究を行い、博士前期課程の時には昨年度退官されました大野信忠教授のご指導の下シミュレーションに取り組みました。その後、日本ガイシ株式会社にて開発の業務に取り組みました。一方で、実験の面白さが忘れられず 2012 年より梅原徳次 教授に再びご指導いただき、今年 3 月に博士後期課程を修了、4 月に助教として着任に至った次第でございます。博士後期課程では弾性変形を有する加熱された樹脂の付着特性の解明などに取り組み、未だに弾性体の奥深さを感じている次第です。今後も弾性変形するような材料のトライボロジー特性や 3D プリンタを使用して作られる弾性変形する機械要素の開発に取り組んでまいります。

至らぬ点もあるかと思いますが、名古屋大学の教育・研究活動の発展に尽力していく所存ですので、東山会の皆様には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。

## 着任挨拶

名古屋大学 大学院工学研究科  
マイクロ・ナノシステム工学専攻  
バイオ・ロボティクス講座  
生体医用マイクロ工学研究グループ

**佐久間 臣耶 助教**



平成 28 年 4 月 1 日付でマイクロ・ナノシステム工学専攻・生体医用工学研究グループ（新井研究室）の助教に着任いたしました佐久間臣耶と申します。平成 25 年 3 月に名古屋大学院工学研究科マイクロ・ナノシステム工学専攻の博士後期課程を修了し、博士（工学）の学位を取得いたしました。学生時代には、マイクロ流体チップに関する研究を行っており、チップ内にロボット構造体を統合し、単一細胞の機械的特徴量計測への応用に取り組んでおりました。現在は、これらの研究をさらに発展させ、単一細胞のみでなく、細胞凝集体や、微生物などの、操作・解析に取り組んでおります。日々の生活では、新井教授をはじめ、研究室の学生とともに、アイデアだし、意見交換、実験、および解析と、非常に楽しい研究生生活を送っております。まだまだ不勉強な点が多く、御迷惑をお掛けすることも多々あることと存じますが、名古屋大学の研究・教育活動に貢献できるよう精進していきます。東山会の皆様には、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

## 昇任挨拶

名古屋大学 大学院工学研究科  
機械理工学専攻 機械情報システム工学分野  
生体力学・人間機械工学講座  
安全知能学研究グループ

岡本 正吾 講師



平成 28 年 4 月より、配置換えによって講師の任に就くことになりました。紙面にて恐縮ですが、挨拶を差し上げたい所存です。

私は平成 22 年に博士の学位を東北大学にて取得した後、機械理工学専攻の助教に着任しました。その間、山田陽滋教授の研究室に在籍し、今後も引き続き同研究室にて職務を全うしてまいります。

奇しくも、工学部および工学研究科の改組が平成 29 年度より実施され、教育及び研究が新体制にて実施されることになっております。機械・航空宇宙工学科および関連する専攻も社会情勢を踏まえた新しいメッセージを発信しております。このような時期に、これまでよりも多くの責務を任されることになり、組織本来の目的に即して、新体制の理念を体現していくという気持ちを新たにしております。研究者としては、私はロボティクスおよび確率統計などの情報科学を核として、触力覚インタフェース（ハプティクス）、リハビリテーションに関わる医工連携、装着型ロボットやその安全を中心とした人間支援技術に従事してまいりました。いずれの分野も社会実装を強く意識して、引き続き取り組んでまいります。東山会の皆様には、折に触れ、引き続きご指導を頂戴したく思います。簡単ではございましたが、挨拶とさせていただきます。

名古屋大学名誉教授

大野 信忠

昭和 48 年卒業(第 32 回)



### 最終講義「固体力学研究 40 年余」を思い起こして

本年（2016 年）3 月 1 日に最終講義を名大定年退職のイベントとして行いました。ご参加くださいました方々の多くから好評をいただきましたが、その準備は、大変慌ただしい日程の中で行いました。

最終講義を行うことは、義務ではありませんが、恒例となっています。昨年 11 月末に工学研究科の事務担当者から最終講義の題目、日時、会場に関する問合せメールが送られてきて、自分自身の最終講義について否応なく考えざるを得なくなりました。最終講義の内容は、定年退職する個々の教員によって大きく異なります。筆者の場合、卒業研究以来これまで、固体力学の研究に携わり、また研究を第一としてきました。その結果として、少しは満足できる研究成果が得られましたので、最終講義は「固体力学研究 40 年余」と題して研究成果を中心にお話しすることにしました。12 月 2 日に、この題目を開催日時・場所とともに工学研究科の事務担当者に伝えました。

年が明けて、1 月 3 日から一週間ほど、筆者の 65 歳記念ミニシンポジウムに出席のため国際会議に参加していました。その期間中の 1 月 7 日に、名大教養教育院 OCW 事務室から、最終講義の公開用ビデオ録画の希望調査がメールで送られてきました。そのメールには、ビデオ録画を希望する場合には、使用するパワーポイントを最終講義実施日の 2 週間前までに提出する必要ありと、但し書きされていました。なぜ 2 週間前かとメールで尋ねましたら、著作権チェックのためとの返事が送られてきました。納得して公開用ビデオ録画を希望することにしましたが、パワーポイント提出日まで 1 ヶ月ほどしかないことに少し苛立ちを感じました。

1 月 10 日に帰国後、最終講義の構成と内容について具体的に考え始めましたが、筆者が行った研究の内容は種々であり、まとまりがありません。最終講義で話したいことは研究成果の他にもいろいろとありましたので、考えれば考えるほど収束しなくなり、苛立ちが強くなりました。定年退職のための事務的書類の準備と定年後の仕事場の準備も並行して進めていました。しかも 1 月、2 月は、修士論

文と卒業論文の指導がありますので、大学の教員として1年で最も多忙な時期です。仕方なく、研究成果に関する部分については、昨年の8月に使ったパワーポイントを修正・再構成することにしました。

実は、昨年の8月10～11日に日本機械学会材料力学部門の若手シンポジウムが伊勢で開催され、1時間の招待講演を行いました。筆者のこれまでの研究経験から若手研究者に参考になるようなことを話そうと思い、「私の研究遍歴：クリープ損傷力学から均質化法へ」と題して講演しましたところ、好評を得ました。この副題「クリープ損傷力学から均質化法へ」は、昨年6月にSpringerから出版されました、筆者の65歳記念書籍のタイトルの和訳です。この書籍の前書き部分に筆者の研究業績がまとめられておりましたので、これを分かりやすく紹介するようなパワーポイントを7月に若手シンポジウム用に準備しました。このときは時間に余裕がありましたので、準備に十分な時間をかけることができました。

最終講義の題目にも副題「クリープ損傷力学から均質化法へ」を付けることにし、1月22日に工学研究科の事務担当者に題目の修正を依頼し、承認を得ました。このようなドタバタがありました。最終講義の2週間前までにパワーポイントをOCW事務室に提出することができました。著作権チェックの結果、修正が必要な箇所はないとの連絡があり、安堵しました。その後、パワーポイントの微修正を何回か行いました。

3月1日に「固体力学研究40年余：クリープ損傷力学から均質化法へ」と題して最終講義を行いました。学外から106名、学内から89名の方々にご参加いただき、会場（工学研究科241講義室）はほぼ満席となりました。興味をもって聴いていただけたと思っています。ご参加くださいました皆様と、準備・実施のため協力してくれました研究室スタッフに改めて深甚の謝意を表します。なお、最終講義のビデオは名大のホームページ

[http://ocw.nagoya-u.jp/index.php?lang=ja&mode=c&id=534&page\\_type=materials](http://ocw.nagoya-u.jp/index.php?lang=ja&mode=c&id=534&page_type=materials)

で公開されています。

東邦ガス株式会社  
供給管理部 幹線設計室

**深津 彰省**

平成8年卒業(第55回)



私は大学院を卒業後、東邦ガスに入社し、現在はガス導管を建設する部門で輸送用パイプラインの工事設計や将来計画の企画に従事しています。名古屋大学減災連携研究センターと連携した地震対策にも携わる機会もいただき、大学とのご縁を感じながら仕事をさせていただいております。

話は変わりますが、本年、東山会企業理事を拝命したのを機会に、久しぶりに大学キャンパス付近をぶら散歩してみました。本山駅から山手グリーンロードを歩き、当時の生活圏で昔の面影を探すと、案外と懐かしい風景に出会うことができた一方で、地下鉄や名古屋高速の開通、学内建物の建て替えなどでキャンパスは驚くほど近代化されており、改めて20年という月日の経過を感じました。

様々な所で雑談している学生たちを見ていると、青春を謳歌していることへの羨ましさと、「今も変わってないな」という安心感を覚えました。学生時代の私はお世辞にも「できた学生」だったとは言えず、授業を抜け出して友人と遊びの計画ばかりしていましたので…。そんな私ですが、大学で学んだ体系的な知識や技術的なものの考え方が、現在の基礎になっていると感じることがよくあります。仕事柄、土木や建築、材料について勉強する機会が多くありますが、どの技術も学部時代に学んだことと、どこか根っこで繋がっており、機械屋として学生時代を過ごせた幸せを、今更ながら感じます。

また、携帯電話を片手にしている学生を見て、最近気になっていることも思い出しました。若者たちがすぐにインターネットで「答え」を探そうとする傾向です。Wikipedia 病なんて呼んでいます、「世の中、便利になったものです…」と片付けていいものかと。私たちは学生時代、苦労して調べることで知識の引き出しを増やし、それらを関連付けることで問題を解決したり、直観や洞察力を磨いたりしていたように思います。若者たちの優れた情報検索能力は見習いながら、若き技術者へ「自分の頭で考え抜くことの大切さ」を伝えていくことが、私たちに求められているのかも知れません。

思い出が詰まった地をぶら散歩してみることで、若き日の自分を振り返りつつ、日頃は考えないようなことに思いを巡らせることができました。原点に帰って、



すこし客観的になって周囲を眺めてみるのも、たまには良いかもしれません。

最後に、東山会会員の皆様のご活躍とご健康を祈念して、会員からの便りとさせていただきます。

名古屋大学 工学研究科長・工学部長

新美 智秀

昭和 52 年卒業(第 36 回)



### 工学部・大学院工学研究科 改組に関して

昨年 4 月に研究科長に就任し、平成 29 年 4 月の工学部・工学研究科の組織改編に向けた準備を進めてまいりました。工学部・工学研究科は、世界を代表するものづくり産業の集積地である中部地区の中心的研究大学として、より良い工学系人材育成の期待に応えるため、工学基礎教育を重視すると共に、専門性と総合性を備えた人材育成を目的とした教育組織とカリキュラムを再編成し、学部及び大学院を一体で改組いたします。学部は現在の 5 学科・13 コース構成を、履修コースを廃止し、高校生からも分かりやすい 7 学科に再編し、4 年生の研究室配属で適切な専門分野が選択できるよう (Late Specialization)、3 年次まで徹底した基礎教育を行います。大学院では、複合専攻を発展的に解消するとともに、ミッション再定義を踏まえて、現在の 20 の専攻・分野構成を社会からも分かりやすい 17 専攻に再編します。この再編により、学部と大学院が一体となって「ノーベル賞受賞者を生み出した自由闊達な学風の下で実施する Basics -Specialization -Innovation 教育」を行い、共同研究奨励制度の創設などにより研究力も強化いたします。改編の詳細は、工学研究科の HP (<http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/>) をご覧いただければ幸いです。

引き続きまして東山会の皆様のご指導・ご鞭撻と暖かいご支援を頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 工学部・工学研究科に特定基金を設置

世界をリードする人材の輩出を通して世界に貢献し、研究成果によって社会の期待に応えていくためには、学生や若手研究者が、希望を持って勉学や研究に専念できる環境をより一層整備することが必要です。

工学部・工学研究科は、次のノーベル賞受賞者をはじめ、イノベーションをもたらす科学者・技術者や世界に通用する優れた人材の育成と、それを実施するた

めの教育研究環境の整備のため、工学部・工学研究科に特定基金を設置しました。

学生や若手研究者が思う存分、勉学や研究に専念できるよう、皆様のご支援を賜りたく、この趣旨にご賛同いただき、格段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特定基金の詳細につきましては、工学研究科の HP

(<http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/> )

トップの右上の「ご支援のお願い 工学部・工学研究科支援事業 NUDF-e」のボタン (<http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/whatsnew/doc/fund.pdf> )

からお入りいただいて、ご覧いただければ幸いです。

東山会 前庶務理事  
名古屋大学大学院工学研究科  
機械理工学専攻 教授

巨 陽



### 平成 28 年東山会総会・特別講演会・第 14 回新年同窓会報告

平成 28 年 1 月 9 日（土）、名鉄ニューグランドホテルに於いて、平成 28 年東山会総会・特別講演会及び第 14 回新年同窓会が開催されました。総勢 148 名の同窓生、恩師および現役教員にご参加いただき、盛会のうちに終えることが出来ました。参加者の皆様、ご協力いただいたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

東山会総会では、杉田雄二会長のご挨拶ののち、庶務・会計及び会計監査報告がなされ、内容が承認されました。その後、機械理工学専攻主任・梅原徳次教授から大学の近況をご紹介いただきました。

特別講演会では、名古屋大学 未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積研究センター長 天野浩教授（昭和 58 年名古屋大学工学部電子工学科卒業、2014 年ノーベル物理学賞受賞）を講師としてお招きし、「世界を照らす LED」と題してご講演いただきました。約 1 時間、青色 LED とイノベーションに関する興味深い話題をご提供いただくとともに、講演後の質疑応答にも大変丁寧に応じていただきました。今回の特別講演にはお子様連れでご参加くださる方もおられ、天野先生への関心の高さが伺えました。ご家族の皆様と同窓会をご理解いただくよい機会となったと思います。

引き続き、懇親会に入りました。会長挨拶ののち、東山会副会長 新美智秀教授からお世話になった恩師の先生方をご紹介いただき、代表として平成 27 年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章された近藤一義先生からご挨拶をいただきました。また、山口勝美先生からは乾杯のご発声をいただき、宴が始まりました。杉田会長のご発案による「名大グッズが当たる福引大会」は大いに盛り上がり、見事あたりくじを引き当て LED ランタンや日本酒を獲得された方々からは、喜びの声が聞かれました。続いて、昭和 40 年卒・藤田訓弘前関東支部長の音頭により恒例の寮歌・学生歌斉唱を行うと、宴は最高潮に達しました。最後に、新美副会長より中締めのご挨拶をいただき、会は締めくくられました。

今回の懇親会は、企業理事の粥川宏様、平手洋様に司会をお務めいただき、終始和やかに進行していきました。参加者の皆様はお元気な恩師の先生方を囲み、

懐かしい顔を合わせながらそれぞれ談笑され、楽しいひとときをお過ごしになったようです。今後も東山会が会員の皆様にとって、機械系教室にとって、ますます有意義なものになるよう祈念しております。今後とも皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。誠にありがとうございました。



総会

杉田会長のご挨拶から始まりました



天野浩教授による特別講演



恩師紹介

近藤一義先生からご挨拶をいただきました



ご歓談の様子



初の試み、福引大会  
一等おめでとうございます！



恒例の寮歌・学生歌斉唱

藤田訓弘前関東支部長に音頭を取っていただきました



新美副会長のご挨拶

景気よく一本締めでお開きとなりました

## 第 16 回東山会イブニングサロン開催報告

東山会 庶務理事  
名古屋大学 大学院工学研究科  
機械理工学専攻 教授

山田 陽滋



### 第 16 回東山会イブニングサロン開催報告

平成 28 年 7 月 8 日（金）18：30～20：00、同日開催されました平成 28 年度第 1 回の東山会理事会に合わせて、名古屋大学ベンチャービジネスラボラトリー 3F のベンチャーホールにて、第 16 回イブニングサロンを開催いたしました。東山会理事のご推薦に基づき、株式会社 テクノツリー 代表取締役の木下武雄氏（昭和 40 年機械科卒）氏に、「IoT を活用した工場の見える化」と題して、以下の内容のご講演をいただきました。

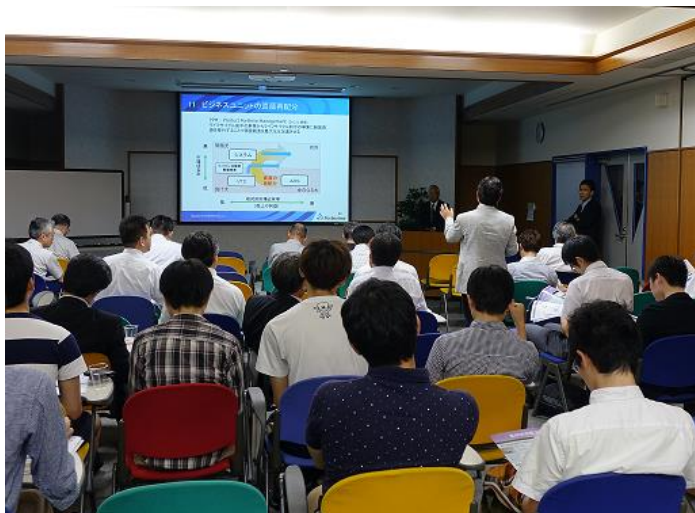
「製造工場では、IoT の普及を基盤とする 2014 年の第 4 次産業革命を起点として、さまざまな機器をネットワークで繋げることにより、生産管理、品質管理、設備管理などの情報を集めた「工場の見える化」を推進しています。この「スマートファクトリー化」に向けたソリューションとして、ノンプログラミングでエクセル帳票を Web 画面に変換する身近なシステムを開発しました。これは、1996 年の産業機械マニュアルの VTC 事業あるいは ADS 事業から始めて、2011 年に XC-Gate システムとして完成したものです。その後、PLC を介して、機械データと手入力データを合わせ製造の M2M を見える化するという生産管理支援の電子化へと展開し、さらに通信プロトコルの搭載へと進めています。自動車関連工場を中心として、同開発システムの応用展開を行ってきました。ゼロから起業して 20 年で売り上げが 10 億を超え、ベンチャー起業として IPO を目指してきました。」とのことです。

講演の後、質疑応答の時間が設けられました。会場からの質問として、「産業機械マニュアルのコンテンツ作製事業から、いかに XC-GATE.PLC の開発へと発展させたか？」については、「現場では、品質低下を防止するために、具体的なイメージをオンサイトで提供できる必要がある。これに重要な役割を演じてきた写真による呈示技術をきっかけにして、検査と結びつけることを考えた。」と、また、「作業の見える化、機械の見える化から、いかにソリューションに結びつける提案を行うか？」に対しては、「スタートのスケジューラに関する技術があるので、

これと3Dの表現技術を絡めて、創造力をもって対峙したい。」とそれぞれ回答しておられました。VTCから始まって、市場占有率の高いマニュアル技術と市場成長率の高い「見える化」技術の統合先に、いかなる技術的發展と社会へのソリューションをもたらすか、今後の木下様のご活躍に一層期待申し上げます。



講師：木下 武雄 氏  
(昭和40年機械科卒、24回生)  
株式会社 テクノツリー  
代表取締役



(株)テクノツリーの社員様も聴講頂きました。



ワインとサンドイッチと共に



## 掲載原稿募集(同期会等の報告)

今後、卒業年次ごとに開催された同期会、講座ごとに開催されたOB会などの情報を掲載したいと考えます。会の幹事の方には下記の情報を東山会事務局までお寄せいただきますようお願いいたします。なお、掲載内容について事務局からご確認させていただく場合がありますことをあらかじめご了解願います。

1. ○○年卒業同期会、あるいは「会の名称」
2. 日時、場所、参加者数
3. 集合写真
4. コメント（200字程度）